

『商 Time』 下関商業高等学校演劇部二〇二三年度上演作品

作者 井上 幸助

上演 山口県下関地区高等学校演劇連盟発表会 最優秀賞

山口県高等学校演劇大会 優秀賞

作品紹介 高校三年の夏、美佳は進路に迷っていた。母親からの強い勧めにより、とりあえず大学進学を目指しているが、いまいち身が入らない。親友の薫は夢を見つけ、その実現のために大学進学を目指しているが…。高校生が抱く進路の悩みを等身大で描く作品。

登場人物 男子一名、女子三名（女子四名でも可）

上演許可申請先 u034ca@yahoo.co.jp まじゅう連絡ください。

なお、上演を希望する場合は、①上演作品名 ②上演日時 ③上演会場 ④上演の目的（イベント名、大会名など） ⑤対象観客（配信を実施するかどうか） ⑥入場料 ⑥担当者名および連絡先 を明記ください。

商 Time

作 井上 幸助



工藤美佳（高3）
北野薫（高3）・面接官
工藤真奈美（美佳の母）・真央（クラスメイト）・面接官
遠藤先生・面接官

第一場

緊張した面持ちで歩いてくる美佳。手にはノート。
ドアをノックする。

面接官 どうぞ。

美佳 失礼します。

面接官 受験番号と名前を言ってください。

美佳 はい！受験番号1051、下の関商業高校から参りました、工藤美佳です。本日は
よろしく願います！

面接官 はい。では、おかけ下さい。

美佳 失礼します。

美佳、椅子に座ろうとするが一步が出ず、足をもたつかせている。

美佳 あれ？えーと……

面接官 ？

美佳 あ、いや、すみません……えーと、確か、椅子の座り方は……

遠くからWe Will Rock Youが聞こえてくる。リズムに合わせて出てくる薫、真央、
遠藤先生。

遠藤 左、右、戻す！

全員 左、右、戻す！

遠藤 いいか！面接は第一印象が大切だ。まず、入室したときの受け答え、これで合否の
半分は決まったと思え！

全員 はい！

遠藤 そして、着席！無駄なくスマートに。それ、左、右、戻す！

全員 左、右、戻す！

遠藤 退席するときは？

全員 戻す、右、左！

遠藤 そうだ！よく覚えてるじゃないか！本番までに体に叩き込んでおけ。

全員 はい！

遠藤 よし、じゃあ……このまま面接の受け答えの練習に入ろう！

全員 ええ……

遠藤 何だ？何だ？その後ろ向きな反応は。まだ二年生気分でのいるのか？

美佳 いや、そうじゃないですけど、まだ早いかあなんて……。

遠藤 お馬鹿！面接の準備に早いなんてことはない！お前みたいなやつが本番で頭真っ白になるんだ。

美佳 はい。

遠藤 まずはやってみるところからだ！失敗なんて恐れるな！（雰囲気を変えて）では、面接を始めます。

全員 え……。

遠藤 あなたが高校生活で一番頑張ったことは何ですか？はい、そのあなた！

美佳 うわ……マジ最悪……。えーっと……。

遠藤 頑張ったことは？

美佳 頑張ったことは……（薫に助けを求める）

薫 （小声で）自分のことでしょ！

遠藤 どうしたのですか？

美佳 し、資格取得です！

遠藤 ほう。どのような資格をとったのですか？

美佳 え、えーと、全商簿記2級とか……

遠藤 全商？簿記？2級？1級ではなく？

美佳 ビジネスなんとか検定3級とか……

遠藤 ビジネス？なんとか検定？3級？1級ではなく？

美佳 全商英語検定……は落ちました。

遠藤 落ちた……？

沈黙

遠藤 そんなんで資格取得頑張ったなんて言うな！

美佳 ごめんなさい……。

遠藤 いいか、資格取得を頑張ったって言えるのはな、北野！

薫 は、はい！

遠藤 あなたが高校生活で一番頑張ったことは何ですか？

薫 は、はい。私が高校生活で一番頑張ったことは資格取得です。全商簿記検定1級や

ITパスポートなど様々な検定に挑戦し、取得しましたが、中でも最も力を入れたのは日商簿記検定1級です。私は将来公認会計士になりたいという夢があり、その夢を叶える第一歩となる日商簿記検定1級の取得は高校入学時からの目標でした。膨大な出題範囲と高い理解力が求められる問題に苦しんだこともありましたが、先生方や周囲の友人の力を借りて何とか合格することができました。貴校に入学できましたら、この経験を活かし公認会計士になるために粘り強く努力を続けていきます。

拍手が起こる。

遠藤 これぐらいじゃないとな。

薫 焦った……。

美佳 薫、えぐいわ……。

遠藤 いいか、お前ら商業高校生は自分たちのアピールポイントをよく認識する必要がある。商業高校生には商業高校生なりの戦い方がある！

全員 はい！

遠藤 普通高校の生徒と同じ土俵で戦うな。こっちの土俵で相撲をとるんだ。

全員 どすこい！

遠藤 いい返事だ！じゃあ、商業高校生がアピールするのはまず？

全員 資格、検定！

遠藤 そうだ！これは商業高校生ならではの強みだ。どんどんアピールしていけ。

美佳 はい！

遠藤 ただし！全商は1級のみアピールしろ。

美佳 え？

遠藤 そりゃそうだろう？これから大学で経済学とか経営学とかっていう商業の学びを深めていこうとしてるやつが、2級とか3級とか言ったら「え？1級は？」ってなるだろう。

美佳 はぁ……。

遠藤 あ、ただし、全商以外は2級以下を言ってもいいぞ。日商簿記とか秘書検定とかだな。

美佳 じゃあ何で全商なんて受けさせるの……。

遠藤 1級とるためだろう！あれほど勉強しておけと言ったのに！

美佳 す、すいません……。

遠藤 全く……でも、そういうときにアピールできるのは？

全員 部活動！

遠藤 そう！個人、個人の体験談が生まれやすい部活動はアピールしやすい。実績があれば

ば努力の証にもなるし、コミュニケーション能力などのスキルのアピール材料にもなる。他には？

全員 学校行事！

遠藤 うん、これも個人の体験談を話しやすい。特に何かの役に就いた者はしつかりとアピールできる。ただし、「楽しかったから」みたいな安直な答えはダメだ。その行事で得たもの、学びがないとな。

美佳 どれも無理……。

遠藤 今すぐ答えが思い浮かばなくてもいい。今までのスクールライフを思い出すんだ！この商業高校デイズを！

美佳以外踊り出す。

美佳 ここは私のアオハル、下の関商業高校！ほどよく田舎でほどよく都会にある学校。

遠藤 学力は高すぎず、低すぎず。私は下から数えた方が早いけどね。

美佳 勉強しろ！

遠藤 無理無理。勉強しなくても卒業できるし、ゆるゆる。でも、商業だから、校則はちよっぴり厳しいけど、

美佳 肩にかかる髪は結べ！ツーブロック禁止！

遠藤 検定とかもうるさいけど……

美佳 簿記検定は最低取得して卒業しろ！

薫 あとは自由気ままにいきていけるハッピースクールライフ！学校行事は？

真央 修学旅行！

遠藤 文化祭！

美佳 体育祭！

全員 盛りだくさん。映え映えでインスタも充実！部活動は？

美佳 野球、サッカー、テニス、バスケ、バレー、陸上、水泳、柔道、弓道、剣道、吹奏楽、JRC、簿記、ワープロ、珠算・電卓、イングリッシュ！

美佳 その他もろもろ何でもござれ！入部も自由、時間の使い方は超……

全員 自由！

美佳 勉強に追われることもない、模試の結果に一喜一憂することもない、勉強しなくてもいいから超……（美佳だけ）自由！……あれ？

全員 ……。

美佳 と、とにかく商業高校……

全員 最高！

遠藤 さあ、高校生活三年間を面接ノートに書き起こそう！

夕暮れ、駅のホームで電車を待つ二人。絵を描いている美佳、それを眺める薫。

薫　ほんと、楽しそうに描くね。

美佳　何が？

薫　絵。

美佳　だって楽しいんだもん。こう、自由になれる感じ？はい、これ薫！

薫　さすがだね……うん？これ、面接ノートじゃん。

美佳　白紙がいっぱいあったもんで。

薫　もう……面接準備大丈夫？

美佳　嫌なこと思い出させないでよ。

薫　現実逃避もほどほどにね。

美佳　あたし面接無理かも……。

薫　まだ早いよ。

美佳　だって、何も頑張ってないし、何言ったらいいか分かんないよ。

薫　それをこれから探すんでしょ？

美佳　そうだけど……えんどうにこれは言っちゃダメ、あれはアピールが弱いとか言われてさ、何にも言えないよ。

薫　確かに。

美佳　薫はいいよね、資格無双で。

薫　どうも。

美佳　あたしも資格とつときゃよかったかな。

薫　でも簿記検定一緒に勉強しようっていったとき、何て言った？

美佳　いやーあたしには無理かな。

薫　って逃げたでしょ？

美佳　だってあのときはほら……テストとかで忙しかったし。

薫　じゃあ今ならできる？

美佳　そりゃもちろん！勉強に全振りするわ！

薫　美佳が？勉強に？全振り？

美佳　うん、無理だね。

薫　だね。

美佳　きー！面接のときだけ薫の頭貸して！

薫　貸してどうすんの？

美佳　薫の頭なら面接余裕っしょ。

薫　でも美佳が検定とか資格とってないのは変わりないんじゃない？

美佳　改めて現実を突き付けてきたな。

薫　突き付けるのが私の役目なので。

美佳 十分突き付けられました！このどSめ！

薫 言い方がひどいなー。

美佳 ま、そういうところに救われてるんだけどね。ホント、お世話になりました。

薫 そんなかしこまって、どうしたの？

美佳 だって……卒業したらそんな会えないから。

薫 え？

美佳 薫、東京の大学行っちゃうんでしょ？

薫 ……うん、東京商業大学。色々悩んだけど、もう決めたの。

美佳 そっか。……一人暮らしするの？

薫 まあね。

美佳 いいなあ。

薫 経済的にはきついんだけどね……。でも、あそこなら簿記1級で授業料の免除あるし、何より会計士の養成に関しては日本一だからね。

美佳 薫はすごいね……。

薫 でも推薦入試で受けるからこれから準備しつかりしないとだけどね。

美佳 薫なら大丈夫だよ！面接、筆記なんでもこい！でしょ？

薫 もう、他人事だからって調子のいいこと言ってる。

美佳 だって他人事だもん。

薫 美佳はどうすんの？

美佳 え？

薫 進路。他人事じゃないでしょ？

美佳 私は……ほら、そこ。

薫 うん？……ああ、下の関大学？

美佳 うん。

薫 ついこのあいだまで、どうしよう、どうしようって言ってたけど決めたんだ。

美佳 うん。やっぱり大学行った方がいいかなって。

薫 そっか。

美佳 それに指定校推薦あるし。

薫 校内選考で選ばれたらもう受かったようなもんなんー。羨ましい。

美佳 へーん。やっぱりそこは大きいよね。家から通える指定校とかマジ最高だわ。

薫 お母さん許してくれたんだ。

美佳 ああ、まあね。とりあえず大学に行ってくれさえしてくればいいんだよ、お母さんしさ。

薫 そっか……。でも、良かったね、念願の大学に行けて。

美佳 待って待って、まだ校内選考が残っておるぞ。

薫 でも、今年受験者他にいなさそうなんでしょ？

美佳　ぐふふ、その通り！神様お願い！このままライブが現れませんように！

薫　神頼みじゃなくて、自分で頑張りなよ。

美佳　ええ無理だよ。

薫　またそうやって。

電車が近づいてくる音。

美佳　お、来た来た。ありや、今日は人が多いな……。

薫　座ったら寝過ぎすんでしょ。ちやうどいいじゃん。

美佳　そうだけどー……座って絵描きたかったなー。

薫　それお絵描きノートじゃないから。じゃあね！

美佳　また明日！

発車する電車。美佳、そのまま自宅に帰る。

美佳　ただいまー。

真奈美　お帰り、美佳。指定校もらえた！？

美佳　帰ってくるなり何よ。

真奈美　下の関大学の指定校、もらえた？

美佳　いや、まだまだよ。

真奈美　ええ？まだなの？いつ決まるのよ？

美佳　1学期の終わりに希望調査票出して、で、先生と親と子どもの三者面談して、で、先生たちの会議があって、で、やっと決まるの。

真奈美　焦らすわー。

美佳　しょうがないでしょ。

真奈美　お母さんね、あなたが指定校もらえるのか、もう心配で心配で。

美佳　もらえるよ！

真奈美　ホント！？

美佳　……たぶん。

真奈美　何よそれ！結局分かんないんじゃないの！

美佳　分かんないよ。だって先生たちが決めることだし。

真奈美　じゃあ今から先生に聞いてみる。

美佳　何言ってるのよ！やめてよそんな恥ずかしいことするの。

真奈美　何が恥ずかしいのよ？「うちの娘は指定校もらえそうですか？」たったこれだけじゃないの。

美佳　それだけで十分恥ずかしいの！それに聞いても答えてくれないから。無理だから。

真奈美 だったらどうすれば……

美佳 待ってて。とにかく待ってて。焦らないで。

真奈美 美佳……。

美佳 それと、そういう感じ、三者面談では絶対出さないでね。

真奈美 そういう感じ？

美佳 その、何ていうか、過保護な感じ。

真奈美 か、過保護？お母さんが？

美佳 お母さん以外誰がいんのよ。

真奈美 美佳、私はね、あなたに絶対大学に行ってほしいからこんなふうに言ってるのよ？
分かってる？

美佳 分かってるよ。

真奈美 いや、分かってない。お母さんね、ずっと自分が大学に行かなかったこと後悔してきたの。何であんなとき就職希望で出しちゃったんだろうって。

美佳 またその話……。

真奈美 お母さんの頃はね、商業高校イコール就職だったの。だから何も考えずに就職しちゃったけど……今は大学行けるんだから、あなたは大学に行きなさい。

美佳 はいはい。

真奈美 美佳にはお母さんと同じ思いをして欲しくないの。美佳だって大学、行きたいんでしょ？

美佳 ……行きたいよ。

真奈美 そうでしょ？だからお母さんも全力でサポートするから！

美佳 いいって！お母さんは全力出さなくていいから！10%くらいで十分！

真奈美 あ、美佳、待ちなさい！

自分の部屋に入る美佳。

美佳 はぁ……重。

椅子に座り、面接ノートを開く。

美佳 うわ、落書きだらけ。でもやっぱりこの薫が一番上手く描けたな。あ、少し顔の輪

郭が細かいか……いかん、いかん、来週の面接練習に向けて準備しなくちゃ。ええと、
志望動機を教えてください。

第二場

教室。各自グループをつくって面接練習をしている。

薫 では、志望動機を教えてください。

美佳 えーと……。

薫 はい。

美佳 はい。私がこの学校を……

薫 貴校。

美佳 貴校を志望した理由は……志望した理由は……

薫 理由は？

美佳 ……見ていい？

薫 (ため息をついて) いいよ。

美佳 すんません……。ええと、私が貴校を選んだ理由は家から近いからです。見知った街で生活すれば不安もないので、勉強に打ち込めると思いました。それに指定校という試験形態にも惹かれたことも理由の一つです。入学後は一生懸命頑張ります。

薫 ……は？

美佳 短い？だったら食堂があるという魅力を感じてっていうのも……。

薫 本気？

美佳 え？

薫 本気で言ってる？それ。

美佳 うん、一週間考えただけ……。

薫 一週間考えてそれか……。

美佳 まずかった……？

薫 あのさ、美佳は何しに大学行くの？

美佳 え？

薫 大学に行く、目的。

美佳 え……そりゃ行った方がいいから。

薫 何で？

美佳 えーと、あ、生涯年収が上がるから！

薫 じゃあどんな職業に就きたいの？

美佳 そんなのまだ決めてないよー。でも、大学にいけば何かしらの職には就けるでしょ。

薫 大学に行かなくても就けるよ。

美佳 いや、そりゃそうだけども……こう、あるじゃん、ね？学歴社会、みたいな。

薫 じゃあ学歴のために行くんだ。

美佳 そう言われると感じ悪い気がする。

薫 ……美佳さあ、ほんとに大学行きたいの？

美佳 行きたいよ！ほんとに行きたい！

薫 だったら真剣に考えようよ。

美佳 考えてるけど……。

薫 大学はさ、勉強するところでしょ？

美佳 うん、そうだね。

薫 こんなことが勉強したい、とか、こんな力を身につけたいとか。

美佳 なるほど……。

薫 美佳は下の関大学でどんな勉強がしたいの？

美佳 どんな……えーと、将来役に立つこと？

薫 曖昧すぎ。もっと具体的に。

美佳 もう許してえ……。

薫 もう……下の関大学って会計士とか税理士の養成ゼミがあるんじゃないの？

美佳 そうなの？

薫 そうなの。大学全体でつてわけじゃないけど、毎年公認会計士とか税理士とか何人か輩出してるみたいだよ。

美佳 く、詳しいね。

薫 私も一時期考えてたからね、下の関大学。

美佳 え！？マジ？

薫 うん。だって、頑張れば夢も叶うし、家から通えば経済的負担も軽くなるし。それに簿記検定持ってたなら、学費免除の制度もあるからね。

美佳 まさか今も……。

薫 今は違うって。やるならとことんやりたいからさ。

美佳 ほ……。

薫 ほ、じゃないわよ。美佳に安心してる暇なんてないよ。

美佳 はい……。

薫 志望動機は作り直し、もっと大学のこと調べ直してから考えよ。面接の対策はこの質問だけじゃないんだからさ。

美佳 ってことは一緒に……？

薫 やってあげるよ。

美佳 薫！

遠藤 よーし、各自練習はできたか？じゃあここで、クラス全体で共有してみよう！

生徒 ええ！？

遠藤 俺の耳にブーイングは届かん。みんなの進路が決まるその日まで！いくぞ！

明るい音楽。面接練習始まる。

遠藤 自己PRをして下さいー！はい！

真央 部活動で身につけたリーダーシップには自信があります！部長として部活をまとめました！はい！

薫 集中力と粘り強さです！難易度の高い検定にもコツコツ勉強して合格することができました！はい！

美佳 えーと……絵を描くことです！

遠藤 うん？

美佳 絵が得意なので、いつも家に帰ったらコツコツ絵を描いてました！はい！

遠藤 大学に入学後はどんな勉強がしたいですか？はい！

真央 スポーツトレーナーになるための専門的な勉強がしたいです！プロのアスリートのトレーナーをされている方のお話も聞けるといいことで、とても勉強になると思うので楽しみにしています。はい！

薫 まずは難関資格である公認会計士の学習に取り組みたいです。また、家族に苦勞をかけているので、少しでも家庭の力になれるようにアルバイトなども行きたいです。はい！

美佳 わ、私もアルバイトがしたいです！で、推しのライブに行きたいです！推しとか言ったらまずいかな……。

遠藤 最後に何か言っておきたいこと、聞いておきたいことはありますか？はい！

真央 入学後は一生懸命頑張りますので、よろしくお願いします！はい！

薫 一点、伺いたいことがあります。三年次にインターンシップとして会計事務所に行くことが出来るとオープンキャンパスで伺いましたが、具体的にどのような体験が出来るか教えていただけませんか。はい！

美佳 あ、あ……特にありません！

遠藤 これで面接を終わります！

生徒 ありがとうございます！

音楽終わる。

美佳 終わった……。

遠藤 何人か気になるやつもいるが……ほとんどのやつは少しずつ面接対策ができてきているな。

美佳 え？マジ。やったー。

遠藤 (睨みつける)

美佳 ヒ……。

遠藤 だが、まだまだ油断するな！隣の就職クラスはもともとと練習が進んでいる。お前ら進学クラスも受験が先だからって気を抜くんじゃないぞ！

生徒 はい！

チャイムが鳴る。

遠藤 よし、じゃあ今日はここまで。片付けしながら聞いてくれ。一学期の進路の時間はこれで最後だ。各自しっかり準備しておけよ。それと、進路希望調査票、親としっかり話し合って書いてこいよ。あ、あと工藤！

美佳 は、はい！

遠藤 何だ今日の面接練習は。

美佳 すいません……。

遠藤 すいませんじゃない。一週間何をしてたんだ？

美佳 自分なりに考えたつもりなんですけど……。

遠藤 お前、指定校だからって気が抜けてるんじゃないのか？

美佳 いえ、そんなことは……ないです。

遠藤 何回も言ってるが、指定校だからって絶対に合格できるわけじゃないんだぞ？そりゃ、他の総合型選抜とか推薦入試よりは合格の確率が高いけど。

美佳 はい、分かっています。

遠藤 それに、指定校を受けるには校内選考で選ばれなくちゃいけない。なのに、お前の中間考査の結果ときたら……何だあの体たらくは。

美佳 すいません。

遠藤 欠点取らなきゃいいって思ってるんじゃないのか？

美佳 思ってません。

遠藤 ……期末考査はもっと真剣にやれよ？

美佳 はい。

遠藤 とにかく、お前はクラスの中でも一番進路への準備が出来てない。全身全霊、全力で進路に向かうこと！

美佳 はい。

遠藤 お前が全力でやるなら俺も全力でサポートするから。

美佳 いや、先生は10%く……なんでもないです。

遠藤 うん？まあいい。とにかく、一生懸命やることいいな？
美佳 はい。

遠藤去る。薫現れる。

美佳 「欠点取らなきゃいいって思ってるんじゃないのか？」……そうだよ！欠点とらなきゃいいよ！だってもう一年、二年の成績で十分指定校の条件満たしてるもんね！

薫 まあまあ。

美佳 いちいちいち、うるさいんだよえんどうは！「指定校だからって絶対に合格できるわけじゃないんだぞ？」受かるだろ！落ちた先輩いんのかよ！連れて来いよ！

薫 うちじゃあそういう話は聞かないね。他の学校ではあるみたいだけど。

美佳 あたしを脅して？勉強させたいのなんだか知らないけどさ。そんなはったり通じませんよー。てか、高校生なんてみんな勉強したくないでしょ、普通。

薫 いや、そんなことないでしょ。

美佳 薫はね。薫はもう別次元だから。私が言ってるのは私次元の話。

薫 それはつまり美佳が勉強嫌いなだけでしょ？

美佳 ぐぬ……いやいや、でも、私たち商業高校だよ？めっちゃ勉強したいなら普通科の進学校行けよって話になるじゃん？

薫 まあそれはね。

美佳 でしょ？でしょ？だから商業高校に勉強が好きな高校生はいない！これが真実！

薫 異議あり。

美佳 肯定からの即否定……はい、どうぞ。

薫 私次元の話をしませう。

美佳 薫次元は別次元だから……

薫 聞いて。私はもともと勉強はそんな嫌いじゃなかった。でも、家のこと考えて商業に来たの、就職するために。

美佳 え……そうだったの？私はてっきりもともと進学かと。

薫 うちの家計が厳しいからさ、何か早く就職した方がいいんじゃないかって思って商業選んだの。就職多いイメージだったし。

美佳 じゃあ何で進学にしたの？

薫 楽しいから。

美佳 え？

薫 一級とって思ったんだ、出来るって楽しいなって。勉強は嫌いじゃないけど、やって楽しいと思ったのは初めて。この先にはどんな景色があるんだろうって。だから、方向転換。

美佳 いやあちよつと何言ってるか分かんないや。

薫 もう……美佳だってそうでしょ？

美佳 そうって？

薫 絵、出来るから描いてるんでしょ？

美佳 いや、出来るってほどじゃないけど……。

薫 でも、小学校のときからずっと描いてるじゃん、絵。しかもめちゃくちゃ上手いし。

美佳 これはあくまで趣味だから……。

薫 私にとってはそれが簿記だったの。

美佳 勉強が趣味!? キモいね。

薫 こら、キモいとか言うな。

美佳 さすが薫次元……。恐れ入りました。

薫 やりたいことを続けられるって幸せだね。

美佳 やりたいことか……。

沈黙。

薫 美佳さ、ほんとは……

薫の携帯が鳴る。

薫 (画面を見て) 何だろう? もしもし。お久しぶりです薫……。はい、はい、分かりました。すぐ行きます。……。美佳、ごめん、ちよっと先帰るわ。

美佳 え? うん。でも電車……

薫 迎え来てるから。じゃあね。

美佳 うん、またね。

薫、走り去っていく。

美佳 でしたんだろ? ま、いつか。それよりあたしは……。 (進路希望調査表を取り出して) 気が重いわ。

教室、三者面談。

真奈美 美佳がいつもお世話になっております。

遠藤 いやいや、お母さん、どうぞおかけください。

真奈美 いやね、この子家でいつもぼーっとしてるから学校でもご迷惑をおかけしてるんじゃないかと思って。

美佳 ちよっとお母さん!

遠藤 いや、迷惑は……。まあとりあえずおかけになって。

真奈美 それでね、いつもお世話になってる先生にお口にあえばと思って (紙袋を差し出す)。

遠藤 いやいや、お母さんそういうのはもう。

真奈美 いや、もうただのお菓子ですから。どうぞどうぞ。

遠藤 いや、私たち一応公務員なので受け取れないんですよ。

真奈美 そんな硬いことおっしゃらずに。先生が受け取るのがまずいなら、学校の先生方皆さんへということ。

遠藤 はあ、まあ、そうおっしゃるなら……。ありがたく。

真奈美 どうぞどうぞ。

遠藤 では、おかけになって……

真奈美 それで先生、うちの美佳の指定校は……

遠藤 いや、あの、座ってもらって……

美佳 お母さん。

真奈美 何？

美佳 座って。

真奈美 ああ。

全員席に着く。

真奈美 それで先生、指定校なんですけど……。

遠藤 お母さん、まずは希望調査票から。

真奈美 え？

美佳 はい。

遠藤 うん。……第一希望、下の関大学、指定校推薦。第二希望上の関大学、推薦。

真奈美 はいはい。

遠藤 こちらはお母様もご了承済みということでしょうか？

真奈美 もちろんです。強く了承してます。あ、でも第二希望はあくまで保険ということ。

遠藤 保険？

真奈美 だってほら……上の関大学ってちょっとランク落ちるじゃないですか。いわゆる

Fラン大学っていう？

遠藤 はあ。

美佳 お母さん。

真奈美 それに指定校もないって言うし、ほんと第二希望はあつてないようなものなので。

遠藤 お母さんのお気持ちはよく分かりましたが……。工藤、お前は本当にここに行きた

いんだな？

美佳 ……。

真奈美 ちよっと、美佳？何黙ってるの？

遠藤 工藤？

美佳 ……行きたいですけど、指定校もらえるんですか？

真奈美 そう！美佳、私も丁度そのことを聞きたかったのよ！で、先生どうなんですか？指

定校頂けるんですよね？

遠藤 いや、ここではまだ何とも。

真奈美 どうしてですか？他に希望者はいないんでしょう？美佳から聞きましたよ。

遠藤 それはまだ分かりません。希望調査の段階で変わる子もいますから。

真奈美 そんな……。じゃあ、ここで指定校の約束はしていただけないってことですか？

遠藤 そうですね。

真奈美 もう、どれだけ待たせるの……。

美佳 だから、言ったじゃん。三者面談の後の会議で決まるって。

真奈美 ええ？そうだったかしら？

美佳 全然聞いてないじゃん……。

遠藤 ですが、希望を変えられるのは今日までです。工藤、本当にこの希望でいいんだな？

美佳 はい。

遠藤 後悔はないな？

美佳 ……ありません。てか、他に選択肢ないんで。

真奈美 この子、もうちょっと勉強ができてたら上の大学も目指せるんですけどね。

美佳 お母さん！

真奈美 ……な、何よ？

美佳 もう話終わったでしょ？帰ろう。

真奈美 ちょっと、そんな言い方……

美佳 先生、もういいですよ？

遠藤 ああ、これは預かっておく。結果は夏休みの登校日に知らせるから、忘れずに来るんだぞ。

美佳 分かりました。失礼します。

美佳の前に現れる薫。

美佳 あ、薫！

薫 あ……美佳。

美佳 急に学校休んで、どうしたの？心配したんだよ？大丈夫？

薫 ……うん、大丈夫。

美佳 家庭の都合でしばらく休むってえんどうから聞いてたけど……何かあったの？

薫 いや……。

真奈美 美佳？

美佳 ああ。

真奈美 ああじゃないわよ。先生にあんなこと言って！あれで指定校落ちたらどうする……あら。

薫 こんにちは。

真奈美 こんにちは……えーと、もしかして薫ちゃん？

薫 はい、お久しぶりです。

真奈美 いやだ、随分大人っぽくなっちゃって！前にうちに遊びに来たのが……中学生のころだから、もう三年ぶりくらいになるのね！

薫 そうですね。

真奈美 女の子は成長が早いわ……。うちの子は例外だけだね。

美佳 お母さんやめてよ。

真奈美 だってそうじゃない。薫ちゃんはこんなにしっかりしてるのに、あんたと来たらもう先生にあんな失礼な態度とって……。

美佳 あーうるさい、うるさい。お母さん、先車行って！

真奈美 ええ？しやうがないわね。じゃあ、薫ちゃん、またね。

薫 失礼します……。

美佳 はあ……ごめんね、お母さんが要らんことばかり。

薫 ……大丈夫。

美佳 そうだ。ちよつと薫にお願いがあるんだけどさ。

薫 何？

美佳 面接ノート見せて！てか、ちよつと貸して！

薫 え？……いいけど。

美佳 ありがとう！安心して。答え丸パクリとかはしないから。ちよつと、ほんのちよつと参考にしたいただけだから。

薫 うん。はい。

美佳 ありがとう。どれどれ……あれ？何か挟まってるよ。

薫 え？あ。

美佳 希望調査票……何で真っ白なの？

薫 いや……。

美佳 これから面談でしょ？

薫 えーと……。

美佳 さては……書いてくるの忘れたな。

薫 うん、そうなんだ。うっかりしてて。

美佳 らしくないなー。ミスパーフェクトでしょ、薫はさ。

薫 パーフェクト……。

美佳 うお……模範解答の嵐……パクリたくなる衝動を抑えねば。

薫 美佳は……もう面談終わったの？

美佳 ああうん、さっきね。

薫 希望調査票は出した……よね。

美佳 そりゃ出したよ。そのための面談だもん。
薫 そう、だね。
美佳 薫、大丈夫？
薫 ……第一希望。
美佳 うん？
薫 美佳の第一希望って……
遠藤 北野。何してる、もう面談の時間だぞ。
薫 あ、すいません。ごめん、美佳またね。
美佳 また、ね。

遠藤と薫、去る。

美佳 よし、これ見てちよつとは準備でもするか。

第三場

登校日の教室。中には薫と生徒。

真央 薫っち！
薫 わ！……おはよう。
真央 おはよう！めっちゃ久しぶりじゃない？
薫 あ、うん、そうだね。
真央 何か……痩せた？というか疲れてる？
薫 ああ、うん、ちよつとね。
真央 ええ？夏バテ？
薫 かも。

走って駆け込んでくる美佳。

美佳 あー危なかった。
真央 美佳。ギリギリだね。
美佳 いやー夏休みだからアラム切っちゃって……あ、薫、おはよう。
薫 ……おはよう。
美佳 ノートずっと借りっぱでごめんね！
薫 ああ、ううん。
美佳 返そうと思って連絡したんだけど……薫、スマホ壊れた？

薫 え？

美佳 いや、LINEしても電話しても全然出ないからスマホダメになったのかなーって。

薫 あ、うん……。

遠藤、教室に入ってくる。

遠藤 おはよう！

全員 おはようございます。

遠藤 よし、色々連絡したいことはあるが、まずはみんな気になってるであろう受験先の決定通知を配るぞ。

真央 うわ……マジ緊張。

美佳 だね。

遠藤 よし、番号順にとりにこい。有田！

美佳 てかさ、三者面談のときのえんどうよそいき過ぎるよね。

真央 それな。

美佳 敬語とか使っちゃってさー。薫のときもそうだった？

薫 ……。

遠藤 北野！

薫 ごめん。

美佳 うん？

席を立って受け取りに行く薫。

美佳 薫何て言った？

真央 さあ？

遠藤 工藤！

美佳 あ、はい！

席を立って受け取りに行く美佳。

遠藤 ……頑張れよ。

美佳 え？

遠藤 小山！

美佳 (席に戻りながら) ……何を？

真央 で、どう？希望通り？

美佳 さてさて、どうかな……（袋から書類を取り出して）……え。
真央 美佳？
美佳 何で？何で、何で……（呆然と座る）

耳鳴りのような音。前で遠藤が何かを説明している。それもやがて終わる。教室には美佳と薫の二人だけが残っている。

薫 ……美佳。
美佳 帰ろう。

夕暮れ、駅のホーム。
二人ともうつむいている。

薫 ……美佳。
美佳 何で落ちたんだろう。
薫 ……。
美佳 私以外、下の関大じゃないんでしょ？私、条件足りてるんでしょ？調査票にも書いたでしょ？じゃあ何で？
薫 ……。
美佳 成績悪いから？部活入ってないから？面接の準備が遅いから？……先生に嫌われ

薫 美佳。
美佳 指定校もらえてたら全部決まっていたのに。もう何も心配せずに済んだのに。こんな思いしなくて済んだのに！

薫 美佳！……何？
薫 聞いて、美佳。
美佳 うん。
薫 ……私。
美佳 え？
薫 私なの。下の関大学を受けるの。
美佳 ……え？
薫 美佳から指定校奪ったのは私。
美佳 ……え、待って、待って。ちょっとわけ分かんないわ。無理。理解できない。
薫 今まで黙ってごめん。

美佳 え？何で？東京の大学は？そこ受けるって言ってたよね？

薫 言ってた。でも止めた。

美佳 は？何で？私が下の関大受けるって知ってたのに？何で？

薫 それは……

美佳 面接練習手伝ってくれたのに？面接ノートも貸してくれてたのに？……ずっと親友だと思ってたのに？

薫 それは……関係ないよ。

美佳 あるでしょ？大ありでしょ！？何で私の進路つぶすようなことしたのよ！何でよ！私が進路の準備ちゃんとやらないから、こいつの指定校なら奪ってもいいって思ってたんだ！？

薫 そんなこと思っていない！

美佳 いや思ってるよ！面接練習のときも、ここで、進路の話したときもずっと騙してたんでしょ！？腹の中で私のこと笑って……最低！

薫 ……何がいけないの？

美佳 はぁ？

薫 私は希望を出しただけ。その後ちゃんとした基準で私を選ばれた、それだけのことだよ。

美佳 何？開き直り？マジ無理。

薫 そうやって無理、無理って言ってたからこんなことになってんじゃないの！？

美佳 ……は？逆ギレ？

薫 美佳は大学行くために何か努力した？

美佳 ……したよ。

薫 何を？

美佳 それは……。

薫 ほら何も言えない。私が勉強誘ったときも、何か部活入ったらって言ったときも全部「無理」の一言で逃げて……それが今の結果に結びついたんじゃないの？

美佳 ……だったら何？

薫 美佳は私に文句言う資格ない。

美佳、薫を思いつきりビンタする。

薫 !

美佳 もう、いい。二度と私と関わらないで。

電車がやってくる。ホームを去る美佳。残る薫。

薫 ……私は、間違ってる。

薫去る。

工藤家。美佳が帰ってくる。

美佳 ……。

真奈美 美佳！一体どういこと！

美佳 ……。

真奈美 先生から連絡があつたわよ！何で第二希望の上の関大学なの！！下の関大学は！？

美佳 知らないよ。

真奈美 あなた指定校絶対とれるって言ってたじゃないの、今年は希望者が他にいないからって。

美佳 言ってるじゃないよ。

真奈美 言ったわよ！だからお母さん、あなたが勉強さぼっても何も言わなかったし、進路のことにあんまり口出ししなかったのよ？それを……

美佳 散々言ってたじゃん。

真奈美 どうするの！ねえ、どうするの！

美佳 さあ。上の関大学受けるんじゃない？

真奈美 受けるんじゃないって……推薦で受けるんでしょ？絶対合格するわけじゃないのよね？

美佳 そうだね。

真奈美 しかも受かってても上の関大学なんて……。

美佳 何？ダメなの？

真奈美 ダメに決まってるでしょ！？そんな大学に行かせるためにお母さん一人であなを育ててきたわけじゃないのよ？

美佳 は？

真奈美 前にも話したでしょ？美佳にはちゃんとした大学に行って、ちゃんとした人生を歩んでほしいって。それだけがお母さんの願いなの！分かってるでしょ？

美佳 分かんないよ。

真奈美 何が分かんないのよ？

美佳 分かんないよ！あんたが言ってることずっと、ずっと訳わかないよ！

真奈美 あ、あんた……？

美佳 ねえ、お母さんは私に何を期待してるの？どうして欲しいの？中学のときは「勉強して進学校に行きなさい」って言って、私の学力足りなくて商業選んだときも「最近の商業は大学にも進学できるから頑張りなさい」って……お母さんができな

真奈美　　　　　つたことを私に押し付けてるだけでしょ!?
そんなこと……。

美佳　　私は勉強が嫌いなもの!本当はあと四年も勉強するなんて苦痛!……だけど、周りの子も進学するし、先生たちも生涯年収の差とか話し出すし、お母さんは……

真奈美　　何よ?

美佳　　こんなの私がやりたかったことじゃない!

真奈美　　美佳……じゃあ何がやりたいって言うのよ?

美佳　　今になってそれ聞く?

真奈美　　どういう意味よ。

美佳　　そんなの私に決められないよ!無理だよ!!

真奈美　　美佳!!

美佳、部屋に逃げ込む。

美佳　ツケが回ってきた。私に薫を責める資格はない。お母さんにも文句は言えない。何も考えず、何も決めずにここまで来た私の責任。……面接ノートを見ると、ダメな私が突き付けられる。やらないといけないことから逃げ出して、落書きばかりしてる。中途半端に上手く描けてて、それがムカつく。画家にでもなるんですか?そんな気ないくせに。私はどうすればよかったんだろう?やりたいことなんてないし、行きたい大学なんてない。ましてや就職なんて出来るわけがない……。他の人はどうやって生き方を決めてるの?私がダメな人間だから進路を決められないの?……薫、どうしてそこまで自分の道を信じられるの?私は無理。でも、自分の道を信じられなくても時間は進む。行きたくもない大学の願書を書き、行きたくもない大学の小論文対策をし、行きたくもない大学の面接練習をする……。そして、明日はいよいよ試験日。はあ、人生無理だわ。

第四場

駅のホーム。薫がいるところに美佳が来る。

美佳　　(薫を見つけて) ……うわ。

薫　　……。

離れている二人。やがて電車がやってきて、薫が乗り込んで去る。

美佳　　気まずすぎ……。うん?

薫が座っていたベンチに近づく美佳。ベンチの上の忘れ物に気づく。薫の面接ノートである。ページが開いている。

美佳 うわ、薫のじゃん……どうしょ。

ノートを手に取り読む。

美佳 「志望動機を教えてください……私が貴校を志望した理由は公認会計士になるという夢を叶えるためです。……ですがそれだけではありません。」……え？「私は元々、東京商業大学に進学したいと考えていました。東京商業大学に通うには一人暮らしをしなければなりません。片親である母が懸命に働いて私の夢を応援してくれていました。母はいつも、あなたがやりたいようにやりなさいと言って私を元気づけてくれました。その母の想いに応えたいと思い、東京商業大学に進学して一流の公認会計士になりたいと考えました。」

薫 しかし、その母が過労で倒れました。ただ倒れたわけではありません。脳に障害が残り、一人では生活できない体になりました。そう、あの日、美佳と一緒に心から笑い合っていたあの日、未来は明るいと思われて疑わなかったあの日、その電話はありました。あの日から私の進路は大きく狂い、そして……美佳、美佳の進路も狂わされました。美佳、こんな形でしか伝えられずにごめん。それから、ずっと黙っててごめん。とても、とても悩みました。美佳に相談しようとも思いました。でも……それはずるいと思ってやめました。だって、私と進路、どっちをとるって聞くようなもんでしょ？だから、一人で決めました。私は夢を諦めることはできない。今の状況で私が選べる道は一つ、家から通える下の関大学に行って、公認会計士になつて、お母さんに「東京商業大学に行かなくても私、夢叶えたよ」と言ってあげることで。だから、下の関大学に希望を出したことは謝りません。後悔も……していません。ここまで読んでくれるかな？もうビリビリに破かれてるかもね……。でも、最後に一つだけ。身勝手な私をもっと勝手なことを言いますが……美佳、自分の好きなことをやってください。私は絵を描いているときの美佳が大好きです。どこまでもまっすぐで、真剣で、楽しそう……これからもそんな美佳でいて下さい。美佳の幸せを祈っています。明日の面接頑張ってください。薫。

面接会場。美佳以外に面接官が三人いる。ノックをする美佳。

面接官 どうぞ。

美佳 失礼します。

面接官 受験番号と名前を言ってください。

美佳 はい！受験番号1051、下の関商業高校から参りました、工藤美佳です。本日はよろしく願います！

面接官 はい。では、おかけ下さい。

美佳 失礼します。

美佳、椅子に座ろうとするが一歩が出ず、足をもたつかせている。

美佳 あれ？えーと……

面接官 ？

美佳 あ、いや、すみません……えーと、確か、椅子の座り方は……

ゆっくりと習った手順で着席する。

面接官 それでは面接を始めます。リラックスして答えてください。

美佳 はい。

面接官 では、本校を志望した理由を教えてください。

美佳 はい、私が貴校を志望した理由は貴校の教育理念に深く共感したからです。貴校では様々な経済学に関する授業が行われており、その授業を通して経済の知識を身につけ、将来は地域社会に貢献する人材になりたいと考えています。

面接官 はい、分かりました。では、続いて高校生活で一番頑張ったことを教えてください。

美佳 はい。私が高校生活で頑張ったことは……べ、勉強です。

面接官 勉強？

美佳 商業高校に進学したので、普通科目だけでなく商業科目についても力を入れて勉強しました。

面接官 ……以上ですか？

美佳 はい、以上です……。

面接官 分かりました。では、自己PRをして下さい。

美佳 はい、私の長所は……協調性があり、物事をじっくりと考えることができ……

面接官 大丈夫ですか？

美佳 すいません。

面接官 ゆっくりでいいので、落ち着いて答えて下さい。

美佳 はい……すみません。(面接ノートを見て)では、訂正します。……志望動機から。

面接官 はい？

美佳 私は貴校を志望する強い理由を持っていません。

面接官 は？

美佳 私は……そもそも自分が何をしたいのか全く分からず、ここまで来てしまいました。高校時代、何も考えず、色んなことから「無理」と言って逃げてきた結果です。

面接官 はあ。

美佳 だからこそ……だからこそ私は自分のやりたいことをきちんと探さないといけないと思っています。母からは良い大学に行って、良い職に就けと言われましたが、私には良い大学も良い職も何か分かりません。少なくとも、良い職とは……やりたいことが続けられる職だと思います。私の親友は、やりたいことを続けるために自分の道を行きました。だから、私も自分の道を探して、自分の道を行います。……私は絵を描くことが好きです。だから、画家にはなれなくても、イラストレーターとかデザイナーとか、そういった分野の仕事に興味があります。気づくのが遅いですよね。今さら何言ってるんだって感じですよ。今からじゃ無理かな……。あ、失礼なことを散々言ってます。面接で言うことじゃないですよ……。でも、これが、今の私に言える志望動機です。

沈黙。あきれられる面接官たち。

面接官 ……はあ、そうですか。もう結構です。

美佳 はい。お時間いただきありがとうございます。失礼します。

面接官から封筒が渡される。封筒の中身を確認すると中には不合格通知。

薫 遅くないと思います。

美佳 え？

薫 今からでも、遅くないと思います。

美佳 今からでも……？

「合格」の文字を伏せる二人。

美佳 無理じゃない、よね。

歩き出す美佳と薫。

終幕